感染制御部プログラム

【研修目標、到達目標】

感染症診断、抗菌薬の適正使用、耐性菌などの院内感染対策を実践できることが研修目標です。感染症に関する研修が重要であるにも関わらず、このような研修プログラムを持っている大学は稀であり、当大学の特徴とも言えます。感染制御のためのチーム医療も重要です。資格取得に関しては、Infection Control Doctor（ICD)、日本感染症学会専門医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医を目標とします。

［到達目標］

１．微生物の概要、感染症の病因、病態生理を理解する
２．感染症診断において、臨床兆候の理解と、**画像診断**の習得
３．微生物検査に関し**グラム染色**が行え、評価が出来る。
４．適切な**抗菌薬の選択と投与計画を行うことが出来る（グラム陰性菌、MRSA、真菌、ウイルス）**
５．抗菌薬における Therapeutic drug monitoring（ＴＤＭ)を適切に評価できる
６．抗菌薬における**薬物動態学・薬力学**（ＰＫ/ＰＤ）を理解する
７．**標準予防策・感染経路別予防策**を理解し、実践できる
８．**腎機能低下、透析患者における抗菌薬の投与設計**が出来る
９．**術後感染症の治療**が出来る
10. **セプシス患者の治療**が出来る
11. 感染予防のための**周術期管理**の習得
12. 各種**感染症サーベイランス**（手術部位感染、カテーテル関連性血流感染など）を行い、評価することが出来る
13. 病院全体の**多剤耐性菌監視機構**について理解する
14. **アウトブレイク発生時の対応**について理解する
15. その他（新興感染症、再興感染症の理解、ワクチンによる感染症予防、職業感染とその対応、感染症関連法規の理解、旅行感染症の診断・治療、結核への対応）

【レジデントA(卒後３年目)カリキュラム】

病棟ラウンドで感染症診断・治療から感染症が治癒するまで感染制御部が責任を持って患者を診ることで、到達目標の１－10 を身につけます。多領域の感染患者を診ますので、今後内科や外科に進む予定の先生方にとっても有意義な研修になると考えます。ICD となるには医師歴が５年以上必要ですが、レジデント中における感染制御部での研修実績があれば、将来的に資格取得の権利が得られます。

【レジデントA（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、ＩＢＤセンターで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【レジデントB、C(卒後４～５年目）カリキュラム】

当院は日本感染症学会研修施設となっています。感染症専門医の申請には３年間研修施設で、定

められたカリキュラムに基づいて研修を行うこととされていますが、感染制御部のカリキュラムはそれに基づいて作成しました。到達目標は 1-15（レジデントの項目に加え 12－15 まで）を研修します。感染症に関する臨床研究の機会は数多く、また基礎的研究のための研究室もありますので、学位取得のための指導体制は整っており、大学院への進学は積極的に行っていただきたいと考えています。なお学会発表は年２回を目標とします。

【カンファレンス、症例検討会等】

耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況などを検討する月１回の Infection Control Team (ICT)カンファランスに加え、週１回症例検討会または抄読会を行います。期間中に関連の国内学会がありましたら、希望により出席していただきます。

【指導医】

指導責任者：竹末　芳生, 感染制御学　主任教授：
（日本外科学会指導医、日本感染症学会専門医、ICD）

指導医：中嶋　一彦（ICD）, 講師

（専従の薬剤師、看護師も在籍し、感染制御における他職種の活動も参考になります）

【研修統括者】

講師：中嶋　一彦

【問い合わせ先】

副部長：中嶋一彦　TEL：0798-45-6689,　E-mail：nakajima@hyo-med.ac.jp